

草②

ミントに思わぬ「効能」

お盆の前に草を刈った。広島在住の家主が数年前に1株植えたミントが、工房を取り巻くように広がっていた。伸びたミントをさつくり刈ると、強い香りが漂う。

ミントは繁殖力が旺盛だ。ベアトリーチエが戻ってくる10月初めには、もう伸びているはずだ。

ロン（ラム酒）と炭酸（ソーダ水）をベースに、砂糖とミントとライムを加えて作る彼女のモヒートは、ヘミングウェイが通ったキューバのバーのよりもおいしい。知らない間に広がったミントのように強く、しかも背丈の伸びない草はないものか？ 県中山間地域研究センターの中山義規さんが

教えてくれたのは、田畑のあぜや斜面を管理する草の本「グラウンドカバープランツ」である。黄金の稲穂を縁取る真っ赤な彼岸花が、毒性を利用してネズミやモグラを防ぐために植えられたものだったとは！

ざっと目を通して、これは容易ではないと思った。農家はクローバーや芝など多様な品種を試し、土壌に合うものを長年探し続けてきた。けれどいまだに、これといった画期的なものはないようだ。伸びない草ならそれで良いというわけでもない。米や野菜はもちろん、動植物への影響や景観まで考えなくてはいけないようだ。

ミントに包まれた村を想像してみる。田畑や動植物に悪い影響がなく、しかも小さな村の産業に結びつけば棚からばた餅なのだが。吾郷地区の地域おこし協力隊員として、神戸から来たグリーンシャとユキコが「ミントティーをたくさん飲むと精力減退するらしいですよ」と言った。

ギョッ！ モヒートですか？

(つづく)



道ばたに生い茂った
ミント＝筆者撮影